

# 2025 年度開始された急性呼吸器感染症サーベイランスの初年度報告

鹿児島県環境保健センター ○中里 文乃 久保 妃未佳 濱田 結花 松岡 洋一郎

## 1 はじめに

急性呼吸器感染症 (Acute Respiratory Infection : ARI) とは、急性の上気道炎 (鼻炎、副鼻腔炎、咽頭炎、喉頭炎) または下気道炎 (気管支炎、細気管支炎、肺炎) を呈する病原体による症候群の総称である。2025 年 4 月 7 日から ARI が感染症法上の 5 類感染症に位置付けられ、定点サーベイランスの対象となった。これにより、地域における ARI の流行状況や病原体の動向を把握する体制が整備された。鹿児島県環境保健センターにおいても、感染症発生動向調査事業の一環として、定点医療機関から提出された検体の病原体検査・解析を行っている。本報告では、当センターが行っている ARI 病原体サーベイランスの検査方法と、県内の ARI 病原体定点 (10 医療機関) から提出された検体におけるウイルスの検出状況を報告する。

## 2 対象および方法

2025 年第 15 週 (4/7~4/13) から 2026 年第 9 週 (2/26~3/1) に ARI 定点に指定されている県内 57 医療機関から報告された ARI、インフルエンザ、COVID-19 の患者数を集計した。また、ARI 病原体定点に指定されている県内 10 医療機関で採取され、当センターへ提出された咽頭または鼻腔ぬぐい液 504 検体を検査対象とした。検査は、国立健康危機管理研究機構・国立感染症研究所作成の「急性呼吸器感染症サーベイランス 遺伝子検査マニュアル」に従い、インフルエンザウイルス A/B、RS ウイルス A/B、ヒトメタニューモウイルス、パラインフルエンザウイルス 1-4 型、アデノウイルス、ライノウイルス/エンテロウイルス、新型コロナウイルスの 12 項目のウイルスについてマルチプレックスリアルタイム RT-PCR により実施した。

## 3 結果および考察

ARI の定点あたり報告数は、2025 年 20 週以降全国をやや上回り、50 週および 2026 年 6 週にピークとなった。このピークはインフルエンザ報告数の急増と一

致しており、インフルエンザの流行によるものと考えられた (図 1)。なお、週あたりの検体数は平均 10.7 検体であった。症例の年齢分布では 10 歳未満から 370 検体と全体の約 7 割を占めていた (図 2, 表 1)。

全検体のうち、393 検体 (78%) からいずれかのウイルスが検出された。検出されたウイルスではライノウイルス/エンテロウイルス (41.9%) が最も多く、次いでアデノウイルス (13.5%)、パラインフルエンザウイルス 3 型 (9.3%)、新型コロナウイルス (8.9%)、RS ウイルス A (6.7%) が続いた。一方、111 検体 (22.0%) ではいずれの対象ウイルスも検出されなかった (図 3)。

10 歳未満からはライノウイルス/エンテロウイルス (51.1%) とアデノウイルス (18.4%) の検出率が高く、10 歳以上では新型コロナウイルスの検出が目立ち、年齢層による検出病原体の違いが認められた (表 1)。

採取週別の検出ウイルスの割合としては (図 4)、ライノウイルス/エンテロウイルスが全期間を通じて高い割合で検出され、ARI で検出される主な病原体となっていた。パラインフルエンザウイルス 3 型は第 17~28 週に高かったが、その後の検出はほとんどみられず、新型コロナウイルスは第 30~43 週に、続いて RS ウイルスが第 35~45 週にかけて高い割合であった。また、インフルエンザウイルス A が第 50 週~第 3 週に高く、インフルエンザウイルス B は第 4 週以降増加傾向にある。全国の病原体検出状況でもライノウイルス/エンテロウイルスが全期間で高い割合を占めており、本県の各ウイルスの週別検出割合は全国の動態とほぼ同じであった。

## 4 まとめ

ARI が 5 類感染症として定点サーベイランスの対象となり、病原体検査を通じて ARI の流行状況や検出病原体の推移が継続的に把握可能となった。今後の課題としては、検体数が目標の件数 (50 検体/週) に到達していないことがあげられる。現在の検体数は週平均 10.7 検体であるため、さらなる協力の呼びかけが必要

となる。毎週一定数以上の検体を収集できれば、年ごとのARIの流行状況をより信頼性高く比較できると考える。今後も継続的な検査および情報集積を行うことで、年間を通したARIの流行状況を把握し、本県の感染症対策に資することが期待される。

参考文献

- 1) 国立健康危機管理研究機構；急性呼吸器感染症 (ARI)  
<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idss/target-diseases/acute-respiratory-infection/sentinel-sites/2025/index.html> (2026/3/6 アクセス)
- 2) 厚生労働省；急性呼吸器感染症 (ARI) サーベイランスに係る具体的な方針について、2025/4/7
- 3) 急性呼吸器感染症サーベイランス遺伝子検査マニュアル、2025年3月

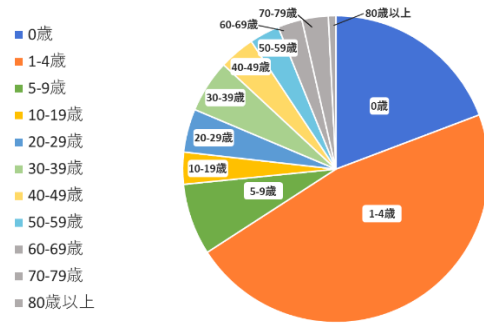


図2 症例の年齢分布

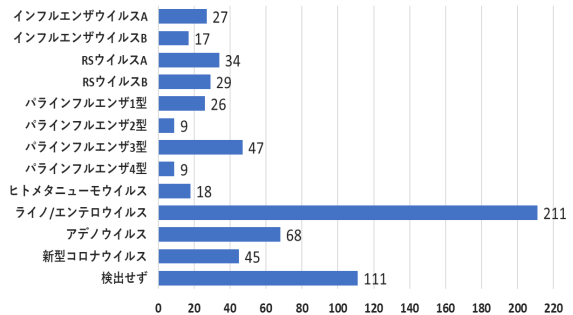


図3 検出ウイルス内訳

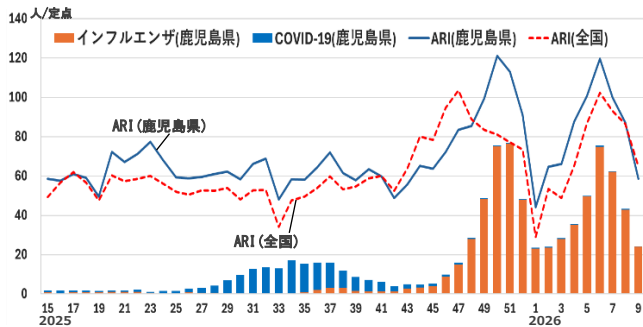


図1 定点当たり報告数の推移 (鹿児島県, 全国)

表1 年齢別の最多検出ウイルス

年齢	ウイルス	年齢別検体数	当該ウイルス陽性数
0歳	ライノ/エンテロウイルス	97	50
1~4歳	ライノ/エンテロウイルス	235	132
5~9歳	ライノ/エンテロウイルス	38	7
	インフルエンザウイルスB		7
10~19歳	ライノ/エンテロウイルス	17	4
	新型コロナウイルス		4
20~29歳	ライノ/エンテロウイルス	23	3
	パラインフルエンザウイルス3型		3
30~39歳	新型コロナウイルス	28	10
40~49歳	ライノ/エンテロウイルス	19	5
50~59歳	新型コロナウイルス	16	5
60歳以上	新型コロナウイルス	31	7
合計		504	

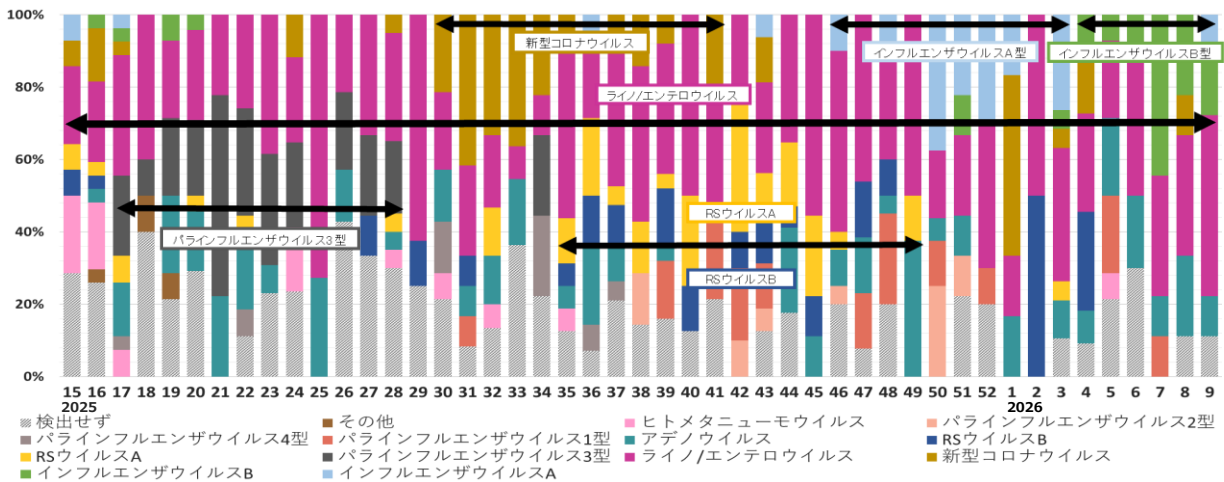


図4 検出ウイルス割合の推移